

SI スクールアイデンティティ



AI技術等の爆発的な進化によって、産業界が大きく変化していく中でも、人間らしい感性や「0から1を生み出す」クリエイティブな能力を持ったデザイナーやエンジニアはこれからも必要とされている。このSIは、本校の特色でもあるデザイン思考を基礎とし、「課題を自ら見つけ出し、自ら考え、解決する」有為な人材の育成を目指している。

本校の教育目標

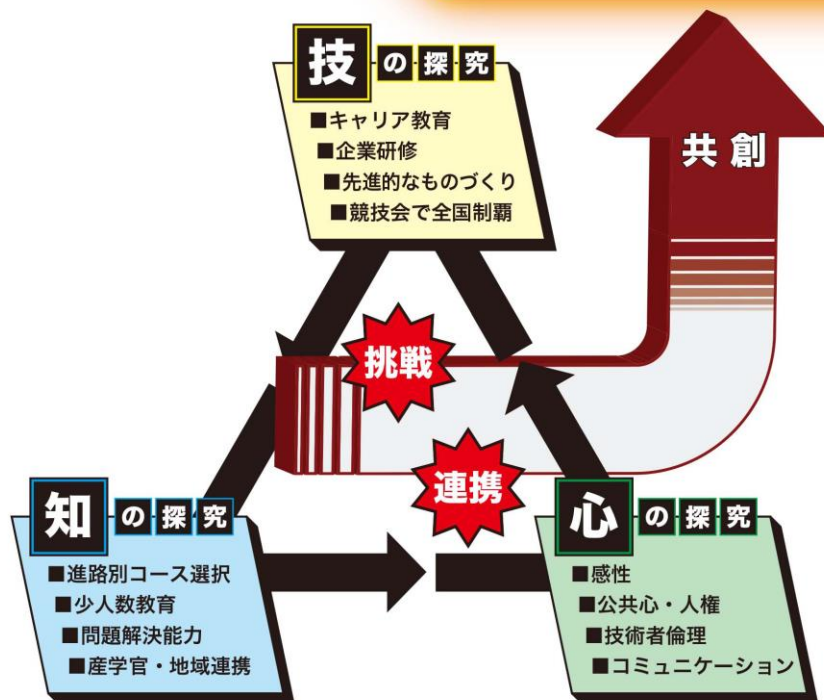
自分の道を、自分で考え、自分で選択し、自分で歩いていく生徒を育てる

本校の教育方針

- ① 広い視野と豊かな感性の育成
- ② 基礎的・基本的な知識・技術や技能の習得
- ③ 自律的に生きる人間の育成
- ④ 公共のために尽くす心、人権を尊重する心の育成
- ⑤ 社会的マナー・モラルの育成
- ⑥ 心身共に健やかで活力のある人間の育成

自分の道を、自分で考え、自分で選択し、
自分で歩いていく生徒の育成

社会の発展に寄与するスペシャリストの育成



令和2年度重点目標について

「知・技・心の探究を通して、自ら考え、挑戦し続けるスペシャリスト」を育成することを基本方針とし、グローバルな視点を持ちながら、様々な外部機関との連携により社会(地域)に貢献し、新しい価値の創造に挑戦する工業教育を推進する。

新学習指導要領の趣旨に基づき、社会のニーズを取り入れた「社会に開かれた教育課程」を構築する。また、「高校生のための学びの基礎診断」等を実施し、「確かな学力」の定着・向上を図る。

① 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた本校の教育課程の構築

昨年度より、「総合的な探究の時間 one by design」を実施し、より探究を重視したプログラムを今年度軌道に乗せることができた。

カリキュラム委員が、次期教育課程の編成に向けて検討を行い、さらに学科、普通科専門科の会、教育課程小委員会、教育課程委員会など、様々な会で検討を重ね、新教育課程をほぼ決定することができた。

② 「いのちの大切さ」を実感させる教育 自殺予防、障害のある生徒への対応、いじめ防止、 人権教育の充実

相談係2名を配置し、管理職、SC、サポート委員会等との連携により、生徒の困難な問題にも対応できた。今後、サポート委員会を中心として、更なる強固な生徒の支援体制を構築する。

③ 「確かな学力」の定着向上を図り、高い進路目標を達成

「高校生のための学びの基礎診断」等の実施

昨年度より「高校生のための学びの基礎診断」の導入を実施。振り返りのプログラムを設定し、「確かな学力」向上に努めた。

今後、授業改善等に向けた取組を推進し、着実な学力定着を図る。また、安易な進路選択をさせないように、確実なキャリア教育を実践していく。

④ 産学官・地域連携事業を強化し、 市民への情報発信を推進

工芸版デュアルシステム、KDO、企業連携等、コロナ禍ではあったが幅広く生徒達が活躍した。市民からも高い評価を得、生徒達の大きな自信となった。

また、防災教育にも積極的に取り組み、全国的に高い評価を受けている。次年度も、産学官・地域連携を充実させて、成果を発信していく。

次代に向けて、特色ある教育課程を構築

来年度からの新学習指導要領の実施に向けて、いよいよ授業展開に落とし込む具体的な時期になってくる。最新情報に基づき、生徒の興味付け、関心、魅力ある授業をどのように実施していくかを検討しなくてはならない。

ギガスクール構想による教育のICT化が急速に進み、今後は、いかに活用していくかが鍵である。

昨年度より、新学習指導要領を見通して、「総合的な探求の時間」や「高校生のための学びの基礎診断」を実施した。「総合的な探求の時間」は、本校のスクールアイデンティティである「one by design」を科目名とし、より探究活動を重視している。また、「高校生のための学びの基礎診断」を導入し、「多面的な評価」や「学力向上」について「マナフェス」を実施した。

昨年度から配置された、キャリアナビゲーター(常駐)と連携し、魅力ある本校のキャリア教育が推進できた。来年度からの新教育課程の実施にあたり、3年間の系統立てたキャリア教育をコアプランとしていく予定である。

令和2年度各分掌重点目標・達成状況・課題など

総務部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
専門委員会の活性化にむけて連携強化を図る	専門委員会の目的を再確認し、より効率的な運営を行う	A	一部の委員会については目的が明確になり充実した活動が行えた PTAの活動等は、コロナ禍で制限がある中、工夫をしながら実施できた	専門委員会のより活性化を図るために、各委員会の目的、内容を精選し、統合整理を目指す
設備の新規導入や更新の推進を図る	教科学科、各分掌と連携を図り教育環境の充実、安全管理、感染症対策に取り組む	A	GIGA スクール構想、オンライン家庭支援サービス等に伴う通信ネットワークに対して適切な対応ができた 教科学科に IT 委員を新設し、教員用パソコンの調査、設定等を学校全体で取り組むことができた 教室のガス栓交換、照明の新設、スポットクーラー等を整備することができた	引き続き、設備の新規導入や更新の推進を図り、学校全体の環境整備に努める。教員用タブレットの導入に伴う、学校 ICT 利活用の推進を図る

教務部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
「主体的な学び」を定着するための学習環境を整備する	学習環境の整備、ICT活用の支援。要学習支援生徒への支援、保護者との連携、教務部指導、学力補充指導。学びの基礎診断の活用方法について検討する	A	今年度は、新型コロナウイルスの影響により、2か月休校の措置が取られた。その中でも生徒がよりよく学ぶため学習環境の整備に努めた。スタディサプリの活用について検討した	GIGA スクール構想の実現に向けて ICT 環境の整備が急速に進んでいる。小中学校では、タブレット端末が導入され、高等学校においても今後導入される可能性がある。ICT を用いた授業について研究を進める必要がある
令和4年度新教育課程へ向けて、カリキュラム委員会と連携し協議、検討を進める	・新学習指導要領について、カリキュラム委員会と連携し研究、協議 ・主体的・対話的で深い学びの研究、実践。観点別評価などの研究	A	・令和4年度新教育課程へ向けて活発な議論を行った ・評価の観点について研究し、勉強会を行った。一部の教科について来年度から先行的に始めることができるように準備をした	新教育課程における評価について研究を重ね、令和4年度の実施に備える

生徒会部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
生徒会執行部と各委員会がより連携して委員会活動を行い、生徒が主体的に実践する生徒会活動や学校行事を推進する	<ul style="list-style-type: none"> 執行部や各委員会の生徒自身を中心となって、行事の企画立案や運営を行う 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会活動や学校行事において、生徒自身が主体的に企画を検討し、運営することができた 委員会の垣根を超え、協力し合って学校行事などを運営することができた 	<ul style="list-style-type: none"> これまで以上にさらに生徒自身が委員会活動を自主的・自発的に行えるようサポートする 学校行事だけでなく、各委員会の枠にとらわれることなく、生徒会全体として取り組み、充実した生徒会活動を行えるようにする
生徒同士が学校生活の課題解決に向けて、計画立案や役割分担をし、協力して自主的、実践的に取り組むことへのサポートを継続する	<ul style="list-style-type: none"> 生徒議会や、生徒の意見を受け付ける「工芸生の声」などを活用し、生徒が積極的に生徒会活動に参加できる環境を作る 執行部や各委員会活動の中で生徒同士が課題を見つけ、解決方法を考えていけるような場を設ける 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ渦での学校行事をどう運営していくか、生徒同士が対策などを考え、実施していくことができた。 臨時休校に伴い、例年のように生徒議会が開催できず、各クラスや生徒個人から声を挙げにくい状況であったため、討論に至らなかった 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒議会や「工芸生の声」の充実を図り、生徒自身が発言しやすい環境を作ることで、学校生活の課題を解決していけるような機会をつくる。 各委員会でも通常の委員会活動以外にも話し合いの場などを多く設けていく
部活動の適正な運用やサポートを継続し、学校全体で支援する環境整備を行う	<ul style="list-style-type: none"> 部代表者を通して部全体への意識付けを行い、部内から適正な部活動運営を行う 部活動を支援するための環境整備を継続的に行う 	A	<ul style="list-style-type: none"> 部代表者会において部全体への連絡を徹底させ、それを受けて各部での運営を行うことができた 昨年度に作成した新しい部予算配当を実施し、適正に運用できているか見極めることができた 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の実績などを校内外に広報し、学校全体で部活動を応援できるような環境づくりを行っていく。 老朽化が進む部活動備品の整備を検討する

生徒指導部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
生活習慣が確立されず、遅刻の多い生徒の原因を早期に把握し、改善へ向かわせる	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻時の声かけによる様子の確認 担任、学年会と情報共有をした上で、面談やゆとり登校を実施 養護教諭との情報共有 	A	担任との情報交換や、面談から、生徒の状況を把握できるケースもあり、その結果、基本的な生活習慣の定着に向けた関わりを持つことができた	遅刻に対して改善の意思が低い生徒もおり、面談を複数回行う生徒もいる。そのような生徒には学科や学年会にも協力を仰ぎ、多方面からの指導を行うことができるよう働きかける
生徒が安心、安全に過ごすことができるよう、担任・学年会・学科との連携、情報共有を図る中で課題を見つけ、問題行動の未然防止に努める	<ul style="list-style-type: none"> 各担当中心に、担任や学年会と定期的な情報の確認を行う 講話や掲示物等で注意喚起を行う 	B	各所との情報共有は意識的に行えたが、今年度は新型コロナウイルスの影響で様々な講演会が実施できなかったため、予防的な注意喚起が不十分であった	現在の課題として SNS 上のトラブルが挙げられる。入学時に SNS の危険性や、使用法の注意点を理解できるよう、講演会を企画、立案する

進路指導部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
キャリアマネジメントの見直しと改善を図る	3年間を通じた進路行事の流れを確認し、各行事での目的を見直しする	A	進路行事やキャリア教育にかかわる授業が、3年間の流れの中でどのように積み重なっていかを整理できた	社会の変化に対して必要なキャリア教育のために行事の内容を検討していく
生徒が自らの能力・適性や学習の成果に合った進路選択ができるようにサポートする	生徒が自身の能力や適性など知ること、学習の成果と合わせた進路選択ができるように促す	B	職業適性や学習の成果から、自らの進む道を選択できるように、担任や学科の協力を得てサポートすることができた	今年度は職業教育をする機会が少なくなってしまったため、ガイダンスや説明会の充実を図りたい
新型コロナウイルスによる社会情勢への変化に対応していく	社会情勢に応じて、進路指導に必要な準備対策を行う	A	就職試験の日程変更への対応や、オンラインによる企業見学会などに対応することができた	今後もオンラインによる見学会などの増加を見据えてPCなどの利用環境を整えていく必要がある。社会情勢に合わせて柔軟な対応が求められる

保健部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
委員会の生徒が中心となって、美化や衛生や保健に関する意識を全校生徒で高め、健康的な学校生活を送れるよう指導・助言する	定期的な「ほけんだより」の作成、性講話のまとめに加えて、今年度は保健委員が防災チームと合同で非常時の備えについて学習する機会を設ける。加湿器の運用を保健委員が中心となって行い、クラスでの感染症予防について中核的な役割を担う仕組みを整える	A	防災チームと非常時の備えについて理解を深め、非常時に保健委員がクラスを中心となって動ける仕組みづくりができた。加湿器の運用をはじめとして、保健委員を通じて全校生徒への感染症の予防や健康管理の重要性を訴えることができた	生徒が身の回りの保健や美化について主体的に問題点を見つけ、その改善を自ら考えて行動できる力を継続的に育てていく。また、感染症を予防するためにも、手洗いや検温といった対策を強化する
日々の学校生活の様子、教育相談活動、「こころのSOS」などを通じて悩みを抱える生徒の情報を集め、関係する教職員と相談しながら対応を検討し、サポート体制を整える	定期的にスクールカウンセラー、教育相談係、養護教諭、保健主事で情報を共有した 「こころのSOS」の定期的な実施に加え、相談の希望をとり相談活動を行った	A	サポートを要する生徒の情報を関係各所と共有し、必要な支援について検討して、支援体制を整えることができた。また、担任の先生と連携して、悩みや不安を抱える生徒が学校に登校しやすい体制づくりにきめ細かく取り組むことができた	新型コロナウイルスによってさまざまな活動が制約を受けるが、学校の教育活動が予定通り行えるように分掌や学年会等と連携を深め、前向きに感染症対策を模索していく。また、新型コロナウイルスの影響で不安や悩みを抱える生徒も少なくないため、今年度と同じように丁寧な心のケアに努める

図書部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度の課題・改善
生徒の図書館の利用促進	自由な読書活動の場となるよう図書の選定を行い、生徒の図書館利用の促進に努める	A	生徒、教員から本のリクエストが多数あり、図書を充実させることができた。図書委員による通信の作成により広報活動も行った	年々本の貸出しが減少している。本を読まない生徒に少しでも興味をもってくれるような環境づくりが必要である
図書館の設備充実	授業、課外活動等で利用できるよう専門書の充実、インターネットを活用し情報収集できるように環境を整える	A	古い図書の廃棄を積極的に行い書棚にゆとりをもたせ本を取りやすく整えた	生徒閲覧用のパソコンなども古くなってきているので検討しなければならない

広報企画部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
より効果的な広報活動のあり方を検討する	情報の収集 ・入試状況の分析 ・希望調査等の分析 ・学校広報活動の分析	A	限られた情報で行うため、正確な分析は難しいが、大まかな動向はつかめている	分析した情報をどのように活用していくかを検討していく必要がある
関係部署との連携を図り、安定した受検生確保のための情報を収集・分析する	・中学校訪問の企画・立案 ・進路説明会、上級学校説明会の対応 ・入学案内、学校パンフレットなどの制作	A	今年度は、コロナ禍であり、例年の通りに行事を実施できなかった。ただし、情勢を鑑みながらできることは行うことができた	広報活動の対象を整理し、対象にあった発信方法を検討する リアルタイムに工芸高校の情報を発信する（Webサイトの活用や、パンフレットの刷新等）

工務部

重点目標	具体的方策	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
特色ある工業教育（デザイン・ものづくり）を実現するための施策を検討・実施していく	スクールアイデンティティ「ONE BY DESIGN」に基づいた本校ならではの教育課程をカリキュラム委員会と連携して構築していく	A	カリキュラム委員会から主任会へと計画者が変わり、よりスピーディーにカリキュラム編成が進んでいる	次期カリキュラムの具体化を進めていく
産学官連携事業（KOGEI DESIGN OFFICE）の活動を展開させていく	ロードマップに沿った計画を進めていくとともに、次の5年の計画を実現可能な形で考えていく	B	PC室の更新に伴いKDOの活動拠点を移した。その為、活動状況の見える化がより進んだ。 次の5年の計画は、新型コロナウイルスの影響で計画構成が後回しになり進行が遅れている。この件に関しては次年度考える必要がある	校内外にもっとKDOの活動をPRしていきたい

学校生活アンケート(全校) 平成29年から令和2年度の比較

